

風物誌

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉

第58号 2006年9月15日

資料
見聞

盛親の鞍

関ヶ原合戦で西軍に与して敗北した長宗我部盛親は、帰国後、浦戸城で直ちに軍議を催しました。家臣のなかからは、徹底抗戦論や籠城論も出ましたが、結局盛親自身が上坂して家康に謝罪することになりました。

しかし、土佐国没収という厳しい処分。直ちに浦戸城接收のため、徳川家康の重臣井伊直政配下の鈴木平兵衛らが土佐に派遣されてきました。

下級武士一領具足らを中心とする抵抗もありましたが、城を預かる長宗我部氏家老らは城引き渡しに応じ、浦戸城は開城となったのです。

当時、城内には相当の武器・武具の他、内政・外交の記録である文書・絵図等が蓄積され、当然、元親・盛親をはじめとする長宗我部一族の宝物・日用品などがあつたはずでした。

しかし、これらの多くは「地検帳」などを除いて今日全く行方が分からず、鳩酢草紋のついた同家の遺品を捜すのは至難の業です。

恐らく改易になった家の持物は縁起が悪いと敬遠され、新領主により処分されたのでしよう。また、一部の貴重

な資料は、盛親の命により形見分けのようなことが行われ、家老ら重臣を中心に譲り渡された可能性もあります。

これらは、各家において旧主を偲ぶ家宝として大切にされたはずですが、四〇〇年という歳月のなか、天災や、近代の戦争の影響で序々に失われていったようです。

そうしたなか、個人の不断の努力によつて守られてきたものもあるのです。年代ははっきりしませんが、文禄・慶長期頃の長宗我部家当主の持道具を書き記した史料があります。

そのなかの「大殿様・若殿様御持道具」には、元親・盛親の愛用した武器・武具・日用品が列挙されています。そして、これらの何割かは、盛親が家康に釈明するため上坂した時に持ち出されました。

長宗我部氏には三家老と呼ばれる古くからの重臣がいました。久武・中内・桑名の三氏です。

そのうち最後まで盛親に従ったのは中内惣右衛門でした。この惣右衛門は、盛親が土佐を出てから、大坂の陣に参戦して京都で捕縛されるまで、ほとんど主人の側を離れませんでした。

盛親が処刑される時、共に死を望みましたが、蜂須賀家政の助命により生きながらえ、阿波国内に居住することになったようです。

惣右衛門は蜂須賀氏から何度も仕官を求められましたが、「二君に仕えず」との信念を貫きとおしました。

この阿波中内氏の子孫宅には、盛親から拝領したという鞍が一点遺されています。少し小ぶりの「蒔絵鞍」です。多少損傷もありますが、雲龍文をあしらった見事な作品です。

阿波中内家の「家譜」によれば、長宗我部家鞍師東條作と伝え、口伝では、盛親出生の時、元親が作らせたものといわれています。

元親の持道具には「龍高蒔絵」と「責貝龍文」鞍が見えますので「龍文」が好みだったようです。

この蒔絵鞍は、土佐から持ち出された盛親の思い出の品だったのかもしれない。



雲龍文蒔絵鞍（伝盛親所用）

（野本亮）

長宗我部盛親

—土佐武士の名誉と意地—
のご案内

平成八年(〇月七日(土)〜二月二六日(日))

大坂夏の陣に敗れた後、「もし我ら運さえ良ければ、天下は大坂たるよ」と豪語し、臆することなく京都六条河原の露と消えた武将がいました。

その名は長宗我部盛親。長宗我部氏最後の当主です。彼が無念の最後を遂げて約三九〇年。当館では、この悲劇の武将盛親と、彼の生きた時代を辿る展示会を開催します。

父の元親はまだしも、盛親となると、余程の歴史好きでないかぎり、その人となりを知る人は少ないかもしれません。

今回の展示会では、国親・元親時代の長宗我部氏を概観したうえで、盛親の活躍した時代を大きく三つに分けて構成してみました。ストーリー順に紹介していきます。

I 長宗我部氏戦国を翔る

序章として、土佐の戦国時代の概要を年表や地図で分かりやすく紹介します。

実物史料としては、長宗我部国親・

元親らの文書を予定しています。特に国親の文書史料は大変少なく、今回展示される知行宛行状は、天文二四年(一五五五年)に発給された貴重なものです。

II 嫡男、信親死す

企画展「長宗我部元親・盛親の栄光と挫折」でも取り上げた「戸次川合戦」前後の信親(元親長男)について検証していきます。

元親が緩やかな二頭体制を望み、さかんに信親に内政・外交の指南をしていたことは前回も取り上げました。

ここでは、もう一度信親という武将を追うことで、彼の死がもたらした運命の歪みを確認しておきたいと思えます。

初公開史料として、家老中内家に伝来する元親・信親の連署状(初公開)を展示する他、この戦いで戦死した、家臣西村吉大夫所用の甲冑を展示します。

また、もう一つの見どころとして、

教養に関する展示も行います。父元親による信親への英才教育は徹底しており、当時最高の文化人を岡豊に招聘していたことは諸史料で確認されています。

今回は、信親と和歌の師匠であった小松谷寺覚桜(公家)との交流を示す史料(「蜷川家文書」初公開)を後期のみ展示します。お見逃しなく。

※この展示は、期間中同時開催されるテーマ展示「長宗我部氏と岡豊文化」(三階総合展示室)と連動しています。

III 豊臣家の外様大名として

信親亡き後の家督をめぐる騒動は、以降の長宗我部氏の命運を左右するほどの大きなしこりを残しました。

元親は、世継ぎ評定の場において二男親和、三男親忠を飛ばして、四男千熊丸に亡き信親の女子を娶せたうえで跡目にするというプランを提示しました。

信親戦死後、秀吉からの使者として来国した藤堂高虎は、「(土佐)国の儀は二男五郎次郎(親和)に別条なく仰せ付けられ候」(『元親記』)と申し上げたと伝えられますから、当時の武家社会においてこの跡目指名がいかに異常だったかが分かります。

しかし、元親はすでに増田長盛と烏帽子親の契約をしており、千熊丸元服

の折、長盛の「盛」の一字を拝領し、「盛親」と名乗らせ、重臣の反対を押し切って事実上盛親を家督としたのです。

通常、武家に生まれた者にとって、元服の儀式は「ハレ」の場であり、家臣団の前で盛大なお披露目がありました。しかし、「元親思惟や有りけん披露はなく…」(『土佐物語』)とあるように、反対派家臣の動きを警戒してか、秘密裏に行われたようです。

元親の後継盛親のスタートは序盤から不吉な影が付きまといました。この章では、家督相続の顛末に触れ、以後たびたび土佐と関わりを持つことになる増田長盛をまず取り上げます。

資料としては、「増田長盛画像」(『肖像集』初公開・後期のみ)「増田長盛書状」などと、写真パネル・年表でその人物像を紹介する予定です。次に、豊臣政権から課せられた、外



増田長盛画像

様大名ゆえの苛酷な負担のなかで、軍役と材木役の実態についても取り上げます。

他の四国の諸大名とともに材木の供出を命じられた「豊臣秀吉朱印状」や、豊臣政権からの要求に振り回される様子が見てとれる盛親の家臣宛書状・判物など。文禄・慶長期の元親・盛親親子の置かれた状況を概観します。

この頃、元親は秀吉の命により、大坂・京都に詰めることが多くなり、土佐国内の政治を盛親と配下の奉行衆に委ねるようになっていきます。

盛親は内政を、元親は主に外交を担当するという「両殿様」体制（二頭体制）は、最終的にどうなったのか。興味深いところですよ。

軍役では、朝鮮の陣における足跡を紹介します。秀吉の引き起こした戦のため、多くの優れた土佐の武将が亡くなりました。その犠牲者でもある、元親の実弟、香宗我部親泰の甲冑・陣羽織などを久々に展示。加えて香宗我部氏と盛親の関係についても考えてみたいと思います。

IV 父の死、そして関ヶ原へ

史料の少ない盛親を描くために、今回増田と並んでもう一つの軸となるのが、三男津野親忠です。親忠は父の政略によって幼少より高岡郡の名門津野

氏の養子となっていました。

津野家臣団からの信頼も厚く、秀吉の人質時代、藤堂高虎とも昵懇になったといえますから、武将として相当の器量だったと考えられます。

老齢になった元親は、盛親と親忠の対立による家臣団分裂の危機を回避するため、慶長四年（一五九九）、突如親忠から津野領を没収し、岩村（南国市）に幽閉しました。さらに盛親は、



津野親忠木像（津野神社蔵）

父の死後、徳川方となっていた藤堂高虎と内通しているという理由で兄に死を命じたといわれています。

ここではまず、津野親忠木像（初公開・予定）と津野親忠印判状（初公開）などを展示し、政争の犠牲となった親忠を偲びます。

そして、関ヶ原合戦における政治的動向、盛親の改易から土佐出国に至る経緯などを、盛親と側近中の側近久武

内蔵助らを中心に見ていきます。

資料としては、盛親が父亡き後、直ちに作らせたという「肖像画」（国重文）と「木像」（県指定）を特別展示します。今回は木像を独立ケース内に展示しますので、四方から間近に見ることができます。

関ヶ原合戦前後の様子は、「土佐物語」「元親記」などの史料の他、写真パネルと歴史地図、「関ヶ原合戦絵巻」などで構成します。

V 土佐武士の名誉と意地

国持大名から牢人へ。さらに京都で寺子屋師匠になった盛親。京都所司代板倉勝重の監視のもと、事実上の「放し囚人」だった彼の京都時代を、家臣らとの関わりのなかで捉えていきます。

盛親に最後まで付き従った中内惣右衛門や明神源八の生き方には現代の我々でも心を揺さぶられるものがあります。ここでは、中内家伝来の盛親所用鞍（初公開）や明神源八宛の盛親書状などが必見です。

また、盛親の側にいたという正室は、共に上京した後、数年して病死したとされています。しかし、密かに四国に戻り、盛親の大坂入城に合わせて再度上京しようとして、阿波国で亡くなったとする後世山伝説についても、遺品（初公開）とともに紹介します。



藤堂隊戦死者位牌にみえる桑名弥次兵衛（参考）

盛親最後の戦いとなった大坂の陣については、「大坂夏の陣図屏風」（複製）を展示し彩りを添えます。前哨戦となつた大坂八尾での合戦は、八尾市立歴史民俗資料館作成の詳細なパネルをお借りし、分かりやすく解説します。

八尾での戦では、盛親隊は徳川軍先鋒の藤堂高虎隊と遭遇。激戦となりました。盛親隊は緒戦において藤堂隊に大打撃を与え多くの武將を討ち取りました。

しかし、皮肉にも藤堂家は長宗我部家が改易した後、困窮する長宗我部遺臣を最も多く召し抱えていた家だったのでした。

藤堂隊先手の大将は桑名弥次兵衛でした。元長宗我部家老であったこの名將は、かつての旧主への恩義と現当主への忠義の間で苦しみ、無抵抗のまま突進し、壮烈な最期を遂げたと伝えられています。



京都市 蓮光寺



鐘（伝長宗我部盛親所用）

今回菩提寺常光寺の特別のご配慮により、桑名弥次兵衛の位牌（初公開）をお借りすることができました。今後二度と高知に来ることはない資料を、何としても心の目に焼き付けておきたいものです。

盛親は、その後大坂を脱出して京へ逃走。最後は徳川方に捕縛され斬首されました。享年四一歳。

京都時代に盛親と交流があったという蓮光寺の僧が遺骸と遺品を貰い受け、今日まで手厚く菩提を弔っています。

遺品としては、前号でもご紹介した「金箔押し糸威草摺」「鉄錆地鐘」の他、一振の刀が遺っています。

刀（「無銘 伝兼元」）は、今回の展示のため、蓮光寺のご配慮により、数百年ぶりに研磨され当時の姿が甦りました。こうした遺品の数々から、武将盛親をイメージしていただけたら幸いです。

家康に二度弓を弾き、真田幸村ら友軍の武将が華々しく討死してゆくなか、あくまで生に執着した盛親。

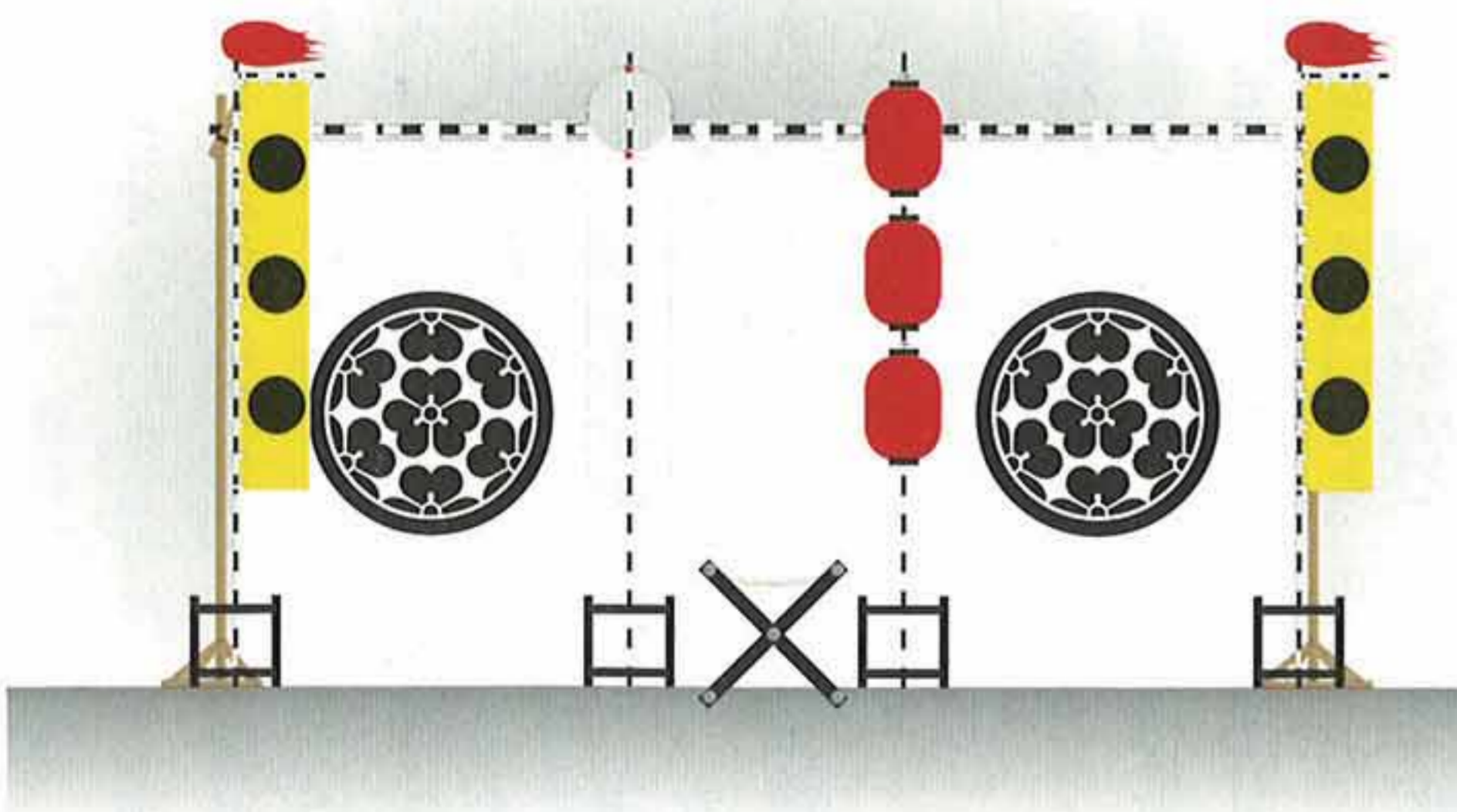
そして、共に土佐を出て最後まで側を離れなかった者。早々に盛親を見限り他国で仕官した者。出国せず、新国主山内氏のもとで新しい国づくりに協力した者等々…。

土佐生え抜きの武士たちの生き様。不器用でも、それぞれの名誉と意地を捨てなかつた男たちの人生を、この秋歴史館でご観覧ください。

プロジェクト ディスプレイ

一軍の大將が、居城を出て合戦などに従軍する際、屋外で休息や軍議を開くため一時的にしつらえた空間を本陣（江戸時代のものとは違う）といいます。

家紋付きの幕を張り、馬印や本陣旗を置くというのが一般的ですが、長宗我部氏の場合、良質な資料が残っていませんので詳細はわかりません。



長宗我部氏本陣ディスプレイ（推定復元）



推定復元の根拠となった「関ヶ原戦陣図屏風」（部分）

しかし、『難波戦記』などによれば、元親・盛親らの本陣旗は「黄地に黒き石餅」、馬印は「赤き三ツ挑燈竿留」とあり、さらに「関ヶ原戦陣図屏風」にもこの記載と合致する盛親隊の姿が描かれていますので推測することはできます。

歴史館では、盛親展に合わせ、二階ロビーに長宗我部氏の本陣を推定復元します。真ん中には陣中床几（折り畳み式の椅子）を置き、実際に座ってもらう、大將の気分を味わっていただく予定です。記念撮影も可能です。

テーマ展示

長宗我部氏と岡豊文化

10月17日(火)～12月26日(火)



「柿本人麻呂図」長宗我部盛親添状付

長宗我部氏の朝廷文化への傾倒は、土佐一条氏や国人大平氏の影響が大きかったのかもしれない。父国親が病死した翌年、元親は岡豊別宮八幡宮に「三十六歌仙扁額」を奉納し、社殿荘厳を行いました。以降、自身も様々な嗜みをもった他、次期当主として期待した信親にも一流の宗匠を付け文芸を身に付けさせました。

この傾向は末弟盛親にも見られ、最近の調査で、彼が「柿本人麻呂図」を所持していたことが判明しています。

本展を補完する文化面の展示は、三階近世コーナーで行います。

テーマ展示

要法寺の名宝 ～山内家と菩提寺～

11月1日(水)～11月25日(土)



「山内曼荼羅」と称された「日蓮聖人曼荼羅本尊」

「旅客来りて嘆いて曰く近年より近日に至るまで天変・地天・飢饉・疫癘・遍く天下に満ち広く地上に迸る。牛馬瓜に斃れ、骸骨路に充てり。死を招くの輩すでに大半に超え、これを悲しまざるの族、あえて一人もなし」鎌倉新仏教の一人日蓮の国宝『立正安国論』の一節です。土佐で有名な日蓮宗寺院が、高知市筆山町にあります。神力山要法寺です。山内一豊が天正三年(一五七五)に長浜城主(滋賀県長浜市)になった時に菩提寺となり、転封の度に隨身し移転、土佐で法燈を展開しました。要法寺には、山内家との関係を示す信仰関係資料などが伝世されています。一豊の弟「山内康豊画像」一豊・康豊の妹合の「慈仙院画像」、一豊の息女「恵沾院画像」です。日蓮の真筆では、弘安四年(一一八二)

「日蓮聖人曼荼羅本尊」、「報恩抄断片」
「日蓮聖人遺文御輿振御書断片」などが
あります。「皆山集」には、「日蓮聖人曼荼羅本尊」が「山内曼荼羅」と称されていたことがみえています。これらの資料の一部を要法寺のご協力で三階近世コーナーで展示を予定しています。

歴史館のバティオ(一)

岡豊山余情

館長 宅間 一之

歴史館の中庭西南部に本館のシンボルともいえる幾何学模様のもニュメントがある。ここが長宗我部氏の居城跡であり、城の高石垣をイメージしたものであろう。もともと、長宗我部氏の時期にはまだ高石垣はなかったが・・・。

それはさておき、夜間は三基のサーチライトに照らされて巨石の配列と紋様は雄大に浮かび上がる設計である。

照明といえば館長室に照明学会四国支部から優秀照明施設の完成をたたえの表彰状もある。ライトのなかの岡豊山歴史民俗資料館の披露も必要であろうか。

庭はもともと「人が集まって何かを行う公的な場所」だという。なかでも日本の庭園は限られた空間に自然美を生かして「人間の理想郷」を表そうとしたところとも云われる。洋風の歴史館の中庭に、日本庭園の情趣を想うのは場違いかもしれないが、風に舞う木の葉を縫うように飛ぶ淡黄色の小さなトノボ。風の音に虫の声、それぞれの花と色。豊かな自然に抱かれた岡豊山ではそんな思いが漂う一瞬が作られるから不思議である。

夕やみの岡豊山、ガラスや小窓から漏れる淡い光、サーチライトに映える巨石とその紋様、あかあかと燃えてゆれる篝火、限られた明かりのもとで演じられる四季の祭りや民俗芸能、俗を離れた岡豊山余情が演出できそうである。

それはさておき、夜間は三基のサーチライトに照らされて巨石の配列と紋様は雄大に浮かび上がる設計である。

照明といえば館長室に照明学会四国支部から優秀照明施設の完成をたたえの表彰状もある。ライトのなかの岡豊山歴史民俗資料館の披露も必要であろうか。

庭はもともと「人が集まって何かを行う公的な場所」だという。なかでも日本の庭園は限られた空間に自然美を生かして「人間の理想郷」を表そうとしたところとも云われる。洋風の歴史館の中庭に、日本庭園の情趣を想うのは場違いかもしれないが、風に舞う木の葉を縫うように飛ぶ淡黄色の小さなトノボ。風の音に虫の声、それぞれの花と色。豊かな自然に抱かれた岡豊山ではそんな思いが漂う一瞬が作られるから



考古

長宗我部氏の墓塔

土佐の戦国時代の墓塔は、五輪塔と宝篋印塔が主体をなしています。南国市岡豊町にある伝長宗我部家歴代の墓と伝えられる墓地にも倒壊した五輪塔や宝篋印塔などの石塔の部分がみられ、そこには段状の遺構が少し確認できます。

長宗我部家の墓塔で有名なものは、やはり高知市長浜の天甫寺山の東南麓に造塔されている長宗我部元親の宝篋印塔です。元親は、慶長四年（二五九九）京都伏見で没し、茶毘後に遺骨は、天甫寺山に葬ら



長宗我部元親墓塔

れ、盛親により墓が造営されています。つまり火葬にされ、遺骨は陶磁器などに納められ葬られているものと推定されます。墓地平面が四角を呈していることから、方形の基壇をもつ埋葬施設と考えられます。その中央に宝篋印塔を造塔したのと思われる塔基礎に「慶長四天七月八日」「護持大施主敬白」の銘が確認されています。なお同時期の香宗我部親氏の宝篋印塔とは、やや形態が異なっています。京都で元和元年（二六一五）大坂夏の陣に敗れ、六条河原で斬首された長宗我部盛親の墓塔とされる石塔は、京都市下京区の蓮光寺に造立された五輪塔です。

(岡本)

歴史

伊能忠敬と伊能大図

伊能忠敬（一七四五～一八一八）は、上総国に生まれ、佐原の名門伊能家を継いで、造酒業、米取引に才を発揮しました。名主として困窮する村民を救うなど公益に尽力しました。寛政六年（一七九四）四九歳で隠居後、五〇歳の時江戸に出て、幕府天文方高橋至時に師事し、暦学・天文学を修めます。蝦夷地への測量を始めとして一八〇〇年から一八一六年まで日本全国の測量を一〇次一七七年間に渡って成しとげました。測量距離にして約三九、〇〇〇kmは、地球一周分にも匹敵します。そして、忠敬の没後、一八二二年に幕府天文方の手で「大日本沿海輿地全図」として完成されました。忠敬が作成した日本地図を総称して「伊能図」と言われ、大図は二一四枚からなっています。しかしその多くは火災で焼失したりして、資料は国内には残っていないとされていますが、平成一三年に米国議会図書館でその模写図二〇七枚が発見されました。これを複製、修復し伊能忠敬の子孫である画家・伊能洋氏監修のもと、若手画家の手によって新たに彩色が施されて、歴史的価値の上に美術価値の高い「伊能大図」としてよみがえりました。



平成一九年三月一日～三月四日東部総合運動場屋内競技場「くろしおアリーナ」において、展示されますのでご期待下さい。

(寺川)

民俗

県内の七夕を再現しよう！



アトリウムに飾りました

ワクワクワークでは、カルチャーサポートが主体となって、県内の伝統的な七夕飾りを再現しています。平成一三・一四年度は中部、一六年度は室戸市、一七年度は大豊町、そして今年はいの町長引の七夕に挑戦しま

した。長引の七夕は、全長一〇〇メートルもある長い綱です。相談の結果、歴史館のアトリウムの上に張ることにしました。四〇メートルの縄をなうので、事前に何回も集まって縄をないました。そして旧暦の七月六日（七月三〇日）、参加してくれた子どもたちやお母さんたちといっしょに立派な七夕飾りが出来ました。色とりどりの紙テープが風に吹かれ、なかなか良い感じでした。この飾りは一週間程度飾っておくつもりでしたが、残念ながら翌日の雨でポロポロになってしまいました、わずか二日で姿を消しました。その一週間後、カルサポの面々は次年度に向けて、津野町芳生野の七夕飾りに挑戦しました。来年度もご期待ください。

(梅野)



藁馬作りにチャレンジ！

開館15周年関連特別企画

日本全図版

よみがえる200年前の日本

伊能大図

フロアー展「くろしおアリーナ」

くろしおアリーナの床面一杯に敷きつめられた大図（複製）の上を歩き200年前の日本の姿に触れてください。同時に展示される測量をもとに仕事をする様々な機関より資料展示のご協力を頂き伊能忠敬（伊能大図）が現在に残した功績や、測量・地図が私達の暮らしにどのように関わっているのかも学んでいただきたいと思いますので、ぜひご来場下さい。

開催期間

平成19年 3月 1日(木) ~ 4日(日) **入場無料**

会場

高知市東部総合運動場屋内競技場「くろしおアリーナ」

開場：9:00~17:00（3/2、3/3は19:00迄）

資料展示協力：国土交通省四国地区整備局（高知河川国道事務所、土佐国道事務所、高知港湾・空港整備事務所）、高知海上保安部、国土地理院四国測量部、(財)日本地図センター 他



れきみんギャラリー

歴史民俗資料館のギャラリースペースで
展示をしてみませんか？

展示資格：県内在住の個人・団体の方。費用：無料

お問い合わせ先：歴史民俗資料館 事業課迄

Tel 088-862-2211

*当館の判断によりお断りさせていただく場合があります。
*監視の職員は常駐しませんのでご了承下さい。



“あずまや.. のある二ノ段でひと休み”

岡豊山の
さんぽ道

新刊等のご案内

「土佐の歴史玉手箱
— 歴史15年の歩み —



開館15周年関連企画展「土佐の歴史玉手箱」のパンフレットです。寄贈・寄託、収集等した資料群から縄文時代～近・現代、民俗資料までの中から主な資料を解説とカラー写真で紹介したものです。

A4版 16頁 オールカラー
頒価200円 (送料180円)

「クリアファイル」
— 土佐捕鯨図絵 —



A4サイズのクリアブックが新たに販売物に変わりました。「土佐捕鯨図絵」(勢子船に乗った羽差が運搬用の縄を掛けるために切れ目を入れる場面)と鯨車(勢子船に車輪をつけて玩具化したもの)がデザインされています。

頒価200円 (送料140円)

○口座番号 01600-2-38806
○加入者名 高知県立歴史民俗資料館

※口座番号・加入者名が変わりました。

臨時休館のお知らせ

下記の期間夏の企画展の資料搬入・展示・撤去及び館内メンテナンスの為 臨時休館と致します。

- 平成18年 9月25日(月)～9月26日(火)
- 平成19年 1月22日(月)

岡豊風日(おこうふうじつ) 第58号
平成一八年九月一五日
編集・発行 高知県立歴史民俗資料館
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1
TEL 088(862)2211
FAX 088(862)2110

開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

休館日 年末年始(12月27日～1月1日)、
臨時休館日あり

入館料 通常期「常設展」大人(18歳以上) 450円・団体(20人以上) 360円
無料: 高校生以下、高知県及び高知市長寿
手帳所持者、療育手帳・身体障害者
手帳・障害者手帳・戦傷病者手帳・
被爆者健康手帳所持者とその介護
者(1名)
印刷・(株)飛鳥

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

平成18年10月～平成19年2月の催し物

開館15周年関連企画展

長宗我部盛親

— 土佐武士の名誉と意地 —

平成18年10月7日(土)
～ 11月26日(日)



大河ドラマ「功名が辻」の放送にあわせて、山内一豊入国前後の土佐を長宗我部氏の視点から描きます。初公開の盛親の遺品も展示します。

企画展講演会

要予約 ●葉書かEメールで住所、氏名、電話番号をご記入のうえお申し込みください。

10月15日(日) 「豊臣政権と西国大名」
14:00～16:00 高知城ホール 小和田哲男氏(静岡大学教授)
*入場無料

11月4日(土) 「盛親の家督相続について」
14:00～16:00 当館 AVホール 津野倫明氏(高知大学助教授)
*入館券が必要です

れきみん講座

●予約不要ですが、入館券が必要です。

11月11日(土) 「長宗我部盛親の発給文書について」
14:00～15:30 当館学芸専門員 野本 亮
2階 AVホール

展示室トーク

担当学芸員による展示解説です。

●予約不要ですが、入館券が必要です。

10月 8日(日) 14:00～15:00 11月18日(土) 14:00～15:00
10月21日(土) 14:00～15:00 11月25日(土) 14:00～15:00

11月 3日(祝・金)

長浜初陣太鼓 1回目 13:00～2回目 14:00～
岡豊歴史散歩 (先着30名、電話申込) 13:00～15:00

ワクワクワーク

●電話かEメールでお申し込みください。

「鎧を着て侍大将になってみよう!」 11月3日(祝・金)
10:00～12:00

「土佐民話の家⑩めでたい話」 1月6日(土) 14:00～15:00
お正月にちなんだめでたい紙芝居です。(講師:市原麟一郎氏)

「さわってみよう昔の道具」 1月7日(日) 14:00～15:00

史跡めぐり

●専用の申込書をご請求下さい。

10月28日(土) 長宗我部氏ゆかりの地を訪ねて
11月19日(日) 津野山古式神楽

(参加費要・申し込み多数の場合は抽選)

開館15周年関連特別企画

「伊能大図」

入場無料

平成19年
3月1日(木)～4日(日)

9:00～17:00 (3/2、3/3は19:00迄)

高知市東部総合運動場屋内競技場くろしおアリーナ

